

17日 木曜

ルカ

22:1 さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。

22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というのは、彼らは民衆を恐れていたからである。

22:3 さて、十二弟子のひとり、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンがはいった。

22:4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。

22:6 ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。

22:7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。

22:8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」

22:9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」

22:10 イエスは言われた。「町にはいると、水がめを運んでいる男に会うから、その人がはいる家までついて行きなさい。」

22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っておられる。』と言いなさい。

22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」

22:13 彼らが出かけて見ると、イエスの言わ



れたとおりであった。それで、彼らは過越の食事の用意をした。

ユダに関してはイエス様を裏切った動機が色々に推察されますが、その本質は「サタンがはいった」からだと書かれています。サタンに立ち向かうためには、自分自身を主に明け渡す信仰しかありません。自分で理屈をつけながら主のみこころを拒んでいると、サタンに勝つことはできませんから気をつけましょう。

過ぎ越しの食事は旧約の教えに則ったものですが、イエス様はそれをも大切にしました。イエスさまは律法を廃棄するために来られたのではなく、律法を完成するために来られたからです。イエス様こそが信仰の創始者であり完成者なのです。

神がなさることに矛盾はありません。人間は神様の命令に対して、それは無理だと勝手に思い込むことがあるかもしれませんが、神様は御自身に矛盾のない方です。主に反論するよりも、どのようにしたら従えるかを考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

